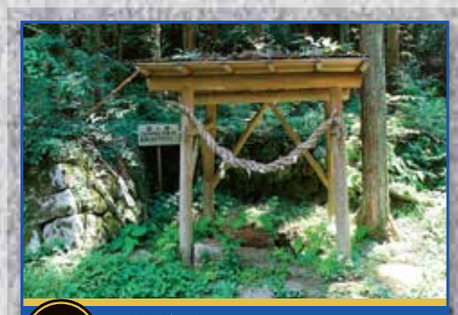
日本百名城

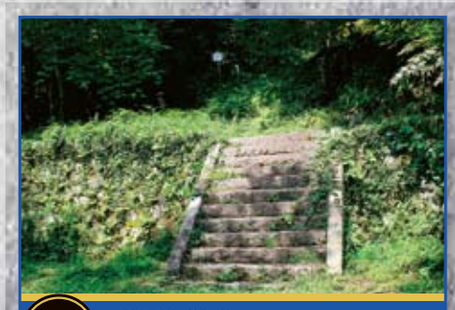
岩村城跡マップ

岩村城は鎌倉時代文治元年（1185年）に築城されました。大和高取城（奈良県）備中松山城（岡山県）と並ぶ日本三大山城の1つに数えられる城で標高717mの山頂にあり、城下町を見下ろし、四方の山々も一望することができます。天然の峻険な地形をよく利用した要害堅固な山城で、江戸諸藩の府城の中では、もっとも標高の高いところに築城されており、しかも明治維新まで存続したのが、この岩村城です。



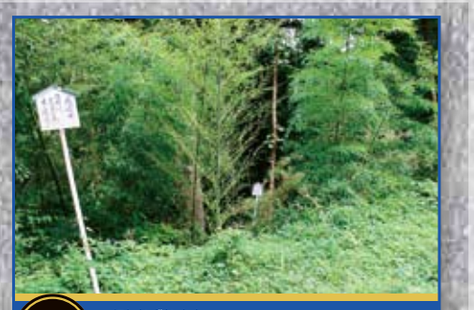
6 霧ヶ井（きりがい）

城主専用の霊泉で、敵が攻めてきた時、城内秘蔵の蛇骨をこの井戸に投じるとたちまち霧に覆われて城を守ったと言われています。



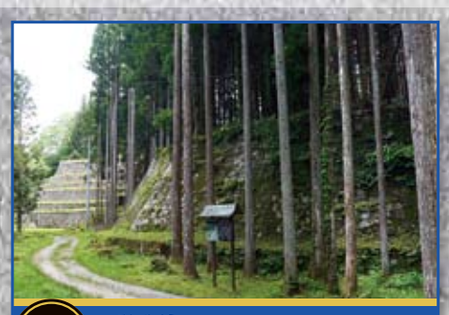
7 八幡神社（はちまんじんじゃ）

八幡曲輪の最奥部には遠山氏が崇敬したといわれる八幡神社が造営されていました。



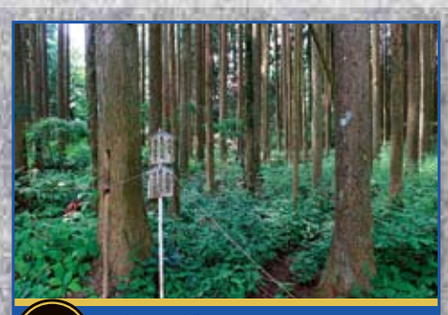
8 俄坂門（にわかざかもん）

八幡曲輪の東面に設けられた門が俄坂門で、二層の櫓門が構えられていました。戦国期まで400年間の岩村城の正門です。



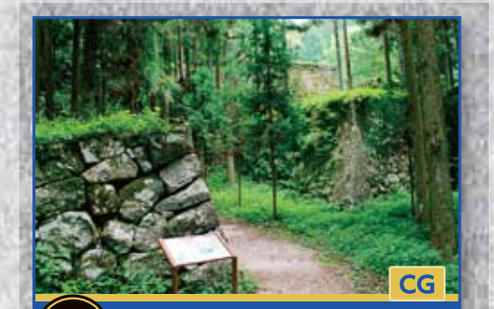
9 菱櫓（ひしやぐら） CG

石垣を地形にあわせて積んだため、菱形になり、その上に建てた櫓も菱形に建っていました。菱櫓は山城ゆえの特殊な建物でした。



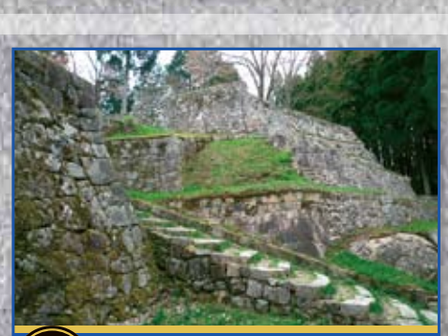
10 二の丸（にのまる）

岩村城最大の曲輪で、番所、役人詰所、朱印蔵、武器庫、米蔵などの施設が設けられていました。また、その中心部には弁天池が配置されていました。



5 畳橋・追手門・三重櫓（たたみばし・おおてもん・さんじゅうやぐら） CG

土岐門に続く第三の門で、前面の空堀には畳橋と呼ばれる木橋が架かっていました。追手門の脇には天守に相当する三重櫓（橋櫓）が構えられていました。



11 六段壁（ろくだんへき） CG

六段の石垣は、江戸時代後期に、崩落を防ぐ補強のために下段に石垣を継ぎ足した結果、現在の姿になりました。

12 東曲輪（ひがしくるわ）

本丸長局の東側一段下に設けられた曲輪で、本丸に対する外枡形的機能を持ち、二重櫓が構えられていました。

13 長局埋門（ながつぼねうずみもん） CG

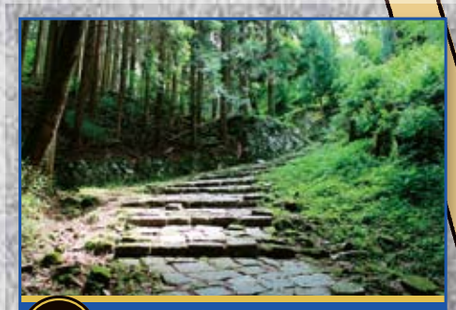
本丸は上下2段の曲輪からなっており、下段は長局（ながつぼね）と呼ばれています。下段から上段に入る門は三個所ありましたが、防御は重要視されておらず、本丸御殿の格式を整えることを重視していました。

14 埋門（うずみもん） CG

野面積み・打込ハギ・切込ハギといった3種類の積み方が一度に見られる日本でも珍しい場所です。

4 土岐門（ときもん） CG

一の門に続く岩村城第二の門で、城主遠山氏が土岐氏を破ってその居城の城門を奪い、ここに移したという伝承からこの名がつきました。



3 一の門（いちのもん） CG

藩主邸からの登城道の最初に設けられた岩村城第一の門で、櫓門とその脇に単層の櫓一の門櫓が構えられていました。

2 初門（はつもん） CG

一直線に登ってきた登城坂（藤坂）は、ここで地形に沿って大きく左に曲がりますが、あえて一度右に曲がるヘアピンカーブとしています。敵が攻めてきたときに一気に登れないようにする工夫で、有事には仮設の門を設ける計画だったとも言われています。

1 藤坂（ふじざか）

藤坂は下田歌子勉学所の辺りから一の門までをいいます。藤坂の名は岩村城創築者加藤景廉の妻が紀州藤城村から持ってきた藤の実を植え大木になったという伝説に因んでいます。

17 出丸（でまる） CG

出丸は岩村城の南西部に突出して構えられた、本丸を守る重要な曲輪でした。

16 本丸（ほんまる） CG

本丸には納戸櫓など二重櫓が2基、多聞櫓2基が石垣上に構えられ、門が3基設けられていました。

15 南曲輪（みなみくるわ）

外側に厚い土塀を巡らし、城兵の移動も迅速にでき、本丸防衛に重要な曲輪でした。曲輪とは、城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称です。